

第二部 神の十戒

第一章 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして

あなたの神である主を愛しなさい」

434. 「先生、永遠のいのちを得るには、どんなよいことをすればよいのでしょうか」（マタイ19・16）。

このように尋ねた青年にイエスは「いのちを得たいなら、おきてを守りなさい」と答え、続けて「来て、わたしに従いなさい」と言い加えられます（マタイ19・17、21）。イエスに従うことはおきての遵守を伴います。律法は廃止されたのではなく、人はそれを神なる教師イエスご自身の中に見いだすよう招かれているのです。イエスはご自分において律法を完全に実現し、その完全な意味を啓示し、その永続性を証明しています。

435. イエスは律法をどのように解釈されましたか。

イエスは律法を、律法の充満である、二重かつ唯一の愛のおきてに照らして解釈されました。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい』。これが最も重要な第一のおきてである。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい』。律法全体と預言者は、この二つのおきてに基づいている」（マタイ22・37-40）。

436. 「十戒」とはどのような意味ですか。

十戒とは「十のことば」（出エジプト34・28）という意味です。これらのことばは、契約という状況の中でモーセを介して神からイスラエルの民に与えられた律法を要約するものです。神への愛（最初の三条）と隣人への愛（残りの七条）のおきてを示すことによって、選ばれた民とその成員一人ひとりにとっての罪の奴隷状態から解放された生き方を描いています。

437. 十戒と契約はどのような関係にありますか。

十戒は契約に照らして見ることで分かります。契約において神はそのみ心を示すことによって、ご自分を啓示されます。民はおきてを守ることによって、自分たちが神のものであることを表明し、神がわたしたちより先にわたしたちを愛してくださったことに感謝をもってこたえます。

第二部 神の十戒

第一章 「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして

あなたの神である主を愛しなさい」

2052 2053 2054 「殺すな、姦淫するな・・・」という隣人愛に関するおきてを思い起こさせる(2052)。イエスはもう一つの答えを付け加える。これは最初の答えを取り消すものではない。キリストに従うということにはおきての遵守が伴う(2053)。イエスの中に、おきてを守り、福音的勧告に生きる姿(=イエスのうちに律法を再発見する)永遠のいのちを得る=おきての遵守→福音的勧告→わたしに従う
↑律法を完全に実現するイエス

「しかしわたしは言うておく」→完全な意味の啓示

キリスト者であるということは、おきてを守り正しく生活すること以上のものです。キリスト者であるとは、イエスとの生きた関係の中にいることです。キリスト者は、深く、個人的に主と結ばれ、真のいのちに導く道へ、主とともに踏み出すのです。

2055

十戒は二つでありながら唯一のおきて
律法の充満であるこの愛のおきてに照らして理解されるべき
「愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法をまっとうする
ものです」(ローマ13・9-10)。

2056 2057 2058 「十のことば」は神の法(律法)を要約し、宣言する(2058)。

「主は、山で、火と雲と密雲の中から」(申命記5・22)(2058)。
十戒の完全な意味はイエス・キリストによる新しい契約(神への愛と隣人への愛)において明らかにされる(2056)。

十戒は何よりもまず、旧約の中心をなす神による偉大な解放の出来事であるエジプト脱出を背景に理解されるべき(2057)。
エジプトでの奴隷状態から解放された体験を背景に、これからは罪の奴隷状態から解放された生き方を十戒を通して体験する

2060 2059 2061

2062 2063 十戒を契約に照らして見る必要→出エジプト記によれば、十のことばの啓示は、契約の提示(19章)とその締結(24章)との間になされたのだから(2060)。

おきてとは、神ご自身およびその聖なるみ旨によって与えられた贈り物(2059)。

十のことばの第一は、神がご自分の民を先に愛されたことを思い起こさせる(2061)。

おきてを守ることによって、自分たちが神に解放され神のものであることを表明し、先に愛されたことに感謝しこたえる。

どのように応答するか。神を認め、敬い、感謝の礼拝をささげ神が歴史の中で遂行される計画に協力する(2062)。

438. 教会は十戒をどのように重要視してきましたか。
聖書とイエスの模範に忠実に従って、教会は十戒が根本的に重大かつ意義深いものであると認めています。キリスト者には十戒を守る義務があります。

439. 十戒が有機的な一体性をもつのはなぜですか。
十のおきては有機的に一つのものとなっており、切り離すことができません。それぞれのおきては他のおきてと十戒全体に影響を及ぼすからです。したがって、一つのおきてに背くことは律法全体に背くことになります。

「十戒」の特徴は、人間の生活全体を網羅していることです。
わたしたち人間は、神（十戒の1から3）と同時に、わたしたちの同胞（十戒の4から10）ともかかわっています。わたしたちは宗教的かつ社会的な存在なのです。

440. 十戒が重大な義務を負わせるのはなぜですか。
十戒は神と隣人に対する人間の基本的な義務を列挙しているからです。

441. 十戒を遵守することは可能ですか。
可能です。わたしたちはキリストによらずには何一つできませんが、キリストはご自分の霊のたまものとご自分の恵みとによって、わたしたちがそれを守ることを可能にしてくださるからです。

第一のおきて わたしはあなたの主なる神である。わたしのほかに神があってはならない

442. 「わたしは主、あなたの神である」（出エジプト20・2）という神の宣言は何を意味していますか。
それは、信じる者にとって三つの対神徳を守って実践し、それらに反することを避けるということの意味しています。信仰の徳は神を信じ、その反対のことを避けず。たとえば、故意の懐疑、不信仰、異端、背教、離教などです。希望の徳は信頼を込めて、神の至福直観と神の助けを待ち望み、絶望と過信を避けます。愛の徳はすべてに超えて神を愛します。それゆえ、無関心や忘恩、不熱心、怠惰や霊的な無精、さらには傲慢から生じる神への憎悪を避けるべきです。

故意の疑いとは、神が啓示され教会が信じるようにと教えることがらを正しいことだと認めることをなおざりにしたり、拒否したりすることです（2088）。

故意ではない疑いとは、信じるのをためらったり、信仰に対する反論に打ちかつ困難を感じたり、信仰の内容が不明瞭であるために不確信を見えたりすることです（9088）

2064 2065 2066

2067 2068

15世紀には、十戒の掟を暗記しやすい韻を踏んだ肯定形の文で表す習慣が始まりました（2066）。教会のカテキズムではしばしば、キリスト教倫理の教義を「十のおきて」の順序に従って説明してきました（2066）。十戒の区分と教え方。本書は、聖アウグスチヌスが定め、カトリック教会の伝統となった区分を採用（2066）。

十のおきては、神と隣人への愛が要求することを表現しています。最初の三つは神への愛、次の七つは隣人への愛（2067）

トリエント公会議は、「義化についての教令」の中で、キリスト者は十戒を守る義務があると触れています（2068）。

2069 2070 2071

創造主である神をたたえることなしに、他人を尊重することはできません。被造物であるすべての人を愛することなしに、神をあがめることはできないはずです。十戒は、人間の神との生活と社会的な生活とを一つに結び合わせてくれます（2070）。

（十戒のおきては理性の力だけで把握できますか？）十戒の掟は理性の力だけで把握されうるにもかかわらず、啓示されました。自然法が要求することがらを完全・確実に知るには、罪障ある人類はこの啓示を必要としていたのです（2071）。

2072 2073

十戒は、守らなければならない神の啓示に属するものであり、それと同じように、理性のおきてでもあります。十戒には根本的な拘束力があるため、その遵守を免除される人はいません。

2074 2082

神は、ご自分がお命じになることを果たすことのできる恵みをお与えになります（2082）。

2083

◎コンペンディウムの答えに直接結び付けるのはちょっと無理がある。

出エジプト記20章2節を正確に引用すると「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」となる。神はこのように語りかけて、民の歴史の中で行われた全能でいつくしみ深い解放のわざを想起させながら、ご自分をお知らせになります（2084）。すると、まず先に、神が愛してくださったのだから、神の愛に対神徳（信仰と希望と愛のおきて）を守って愛の応答をささげることになります。

神は、完全な信仰がささげられることを求めておられます。つまり、すべての希望を神に置き、あらゆる愛の力を神に向けるべきです。神への愛のおきては、すべてのおきての中でもっとも重要なもので、他のすべてのおきての手掛かりです。だからこれが、十戒の最初にあるのです。

不信仰とは、啓示された信仰を軽んじること、あるいは、それに同意するのを故意に拒絶することです（2089）。

異端。受洗後、神のかつかりの信仰をもって信すべきである真理を執拗に否定するか、またはその真理について執拗な疑いを抱くこと（2089）。

背教。キリスト教信仰を全面的に放棄すること（2089）。

離教。ローマ教皇への服従を拒否し、または教皇に服属する教会の成員との交わりを拒否すること（2089）。

絶望。人間が自分の救いや、それを得るための助け、あるいは自分の罪のゆるしを神からいただけると期待するのをやめてしまうこと（2091）。

うぬぼれ・過信。うぬぼれには二つの種類があります。その一つは自分の能力を過信すること、すなわち、神の助けがなくても自分を救うことができると考えること。他の一つは神の全能とあわれみとを過信すること、すなわち、回心しなくてもゆるしが、いさおしがなくても天の栄光が受けられると考えることです（2092）。

443. 「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」（マタイ4・10）という主のことばは何を意味していますか。

それは次のことを意味しています。すなわち、神を存在するすべてのものの主として礼拝し、個人としても共同体としても、神にふさわしい礼拝をささげること、賛美と感謝と嘆願の心を表して神に祈ること、神にいけにえをささげること、とくに、キリストの完全ないけにえに結ばれて、自分の生活を霊的ないけにえとしてささげること、神に対してなした約束と誓約を守ることです。

礼拝は、敬神徳の第一の行為です（2096）。

神を礼拝するとは、神によらなければ存在することはない「被造物の虚無性」を、尊敬と絶対的な服従の心を持って認めることです（2097）。（特別な動作のことではない？）

「わたしたちが聖なる交わりをもって、神と固く結ばれるためになすあらゆる行いこそ、真のいけにえです。」（聖アウグスチヌス）

444. どのようにして人は、真理と自由をもって、神に礼拝をささげる自分の権利を行使しますか。

人はだれでも、真理、とくに神とその教会に関することについての真理を探求し、知ったなら、それを受け入れ、忠実に守り、こうして神に真正な礼拝をささげる権利と道徳的義務をもっています。同時に、人間の人格としての尊厳は、宗教的なことがらにおいて、自己の良心に反して行動するよう強いられたり、公共の秩序の正当な限度内で、私的にも公的にも良心に従って行動することを、個人としても団体としても妨げられてはならないということを要求します。

無関心とは、神の愛について考えることを軽視したり拒否したりして、神の配慮を認めず、その力を否認すること（2094）。
忘恩とは、神の愛を軽んじたり、神の愛を認めて、愛に対して愛をもって報いることを拒否したりすること（2094）。
不熱心とは、神の愛にこたえるのをためらったり、怠ったりすることで、愛に身を任せることを嫌がる態度なども含まれます（2094）。
倦怠・靈的怠惰（無精）。最終的には神からいただく喜びというものを拒否し、神のいつくしみを嫌がるまで達します（2094）。
神への憎しみとは、高慢に由来するもので、神のいつくしみを認めずにその愛に対抗し、罪を禁じ罰を課すという理由で神をのろうこと（2094）。

2084 2085 2086

2087 「あなたの神である主を拝み、」神が人間をお招きになって最初
2090 になさる要求というのは、人間が神を受け入れて礼拝すること
2093 なのです（2084）。

2095 （救いの全歴史の中で先に神からわたしたちに注がれた）愛は
2096 2097 2098 わたしたちが被造物として当然負っているものを神にお返しす
2099 2100 2101 るようにと促します。この態度を取らせてくれるのが敬神徳で
2102 2103 す（2095）。

神を敬うことは、この世の力への隷属状態からの解放をもたらすため、人間にとってもよいことです。神が敬われず、生と死を治める主であると思われなくなれば、他の者が代わりにその地位を占め、人間の尊厳を危機にさらすこととなります。

教会は、福音的勧告を實踐する誓願に特に大きな価値を認めています（2103）。

2104 2105 2106 444番の答えから、さかのぼって質問を考えてみよう。すると、
2107 2108 2109 「人は神に礼拝をささげるとどのような権利を持っていますか」
のような質問にならないだろうか？

「真理」の面から、以下の権利と義務を有している

「自由」の面から、以下の権利を有している

教皇ヨハネ・パウロ2世は次のように言いました。「良心を尊重してなされるなら、キリストを告げ知らせ、キリストの証人となることは、自由を侵すことにはなりません。信仰には、人間の側からの自由な同意が求められますが、同時に信仰は、人間に与えられるべきものでもあります」

（回勅『救い主の使命』8、1990年）

445. 「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」（出エジプト20・3）という神の命令は何を禁じていますか。

このおきては次のことを禁じています。すなわち、多神教と偶像崇拜。何らかの被造物、権力、金銭、さらには悪霊を神とします。迷信。真の神にささげるべき礼拝の逸脱であり、さまざまな形を取った占い、魔術、占有者、霊媒となって現れます。

神への不敬。ことばや行為をもって神を試みること。とく聖、すなわち聖なる人や物、とくに、聖体を汚すこと。聖物売買、すなわち霊的善を売り買いしようとする。無神論。しばしば人間の自律性についての誤った観念に基づいて、神の存在を締め出します。

不可知論。神について何も知りえないとすることで、無関心や実践的無神論を含んでいます。

446. 「あなたはいかなる像も造ってはならない」（出エジプト20・4）という神の命令は聖画像の崇敬を禁じていますか。

旧約においては、この命令によって、絶対的な超越者である神の像を造ることが禁じられていました。しかし、神の子の受肉以後、キリスト教における聖画像の崇敬は正当化されました（七八七年の第二ニケア公会議の宣言）。それは人となられた神の子の神秘に基づいたものだからです。神の子において超越者である神は見えるものとなりました。聖画像の崇敬は、像を礼拝するというのではなく、そこで表されているキリスト、聖母、天使、聖人を崇敬することなのです。

第二のおきて あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない

447. 神の名の聖性はどのように尊ばれますか。

神の聖なる名は、それを呼び求め、たたえ、賛美し、栄光を帰することによって尊ばれます。それゆえ、犯罪を正当化するために神の名を呼んで濫用することや、冒とくのように、神の名にふさわしくない、いかなる使用も避けなければなりません。冒とくはそのこと自体で大罪となります。また呪いや、神の名によってなされた約束に対する不忠実も避けなければなりません。

神の名の濫用。神やイエス・キリストのみ名、おとめマリアやすべての聖人たちの名をふさわしくない形で用いること（2148）。

冒瀆。冒瀆は直接に第二のおきてにそむくものです。あるいは口で、あるいは心の中で、神に対する憎しみや非難、挑発などのことばを発したり、神をあしざまに言ったり、神のみ名を濫用したりすることなどです。冒瀆の禁止は、キリストの教会をはじめ、聖人たちや聖なる事物などに対する悪口にも及びます。よこしまな行いを正当化し、人々を奴隷にし、拷問にかけ、あるいは死に至らせるために神のみ名を持ち出すことなども冒瀆に当たります。ある犯罪を犯すために神のみ名を濫用することは、宗教を否定しようとする行為です（2148）。

冒瀆は神やその聖なるみ名に払うべき尊敬とは相反するものであり、そのこと自体で大罪となります（2148）。

2110 多神教。真の神以外の神々を信じないこと、唯一の神以外の神々を拝まないこと（2112）。

偶像崇拜。

2112 2113 2114

2111 2115 2116 神の存在を締め出すもの。人間は「自己目的で、歴史の唯一の製作者、創作者」のようなものであるという誤った考え。もう

2118 2119 2120 一つは、人間の解放を経済的・社会的開放に期待し、「宗教は

2121 2122 死後の偽りの生命への希望を抱かせることによって、人間を地

2123 2124 2125 上の国の建設からわき道にそらせるものなので、本質的に人間解放を妨げるものである」という考え（2124）。

2127 2128

2129 2130 2131

2132

神は、すべてにまさり（超越）、この世のいかなるものよりはるかに偉大である、というイスラエルの族長たちの知恵は、かつてから今日まで、変わらずに神の像を禁じるユダヤ教にもイスラームにも存続しています。キリスト教では、地上でのキリストの生活に照らし、4世紀から聖画像の禁止は緩和され、第二ニケア公会議（787年）において撤廃されました。キリストの受肉によって、神は、まったく想像できないものではなくなりました。イエス以来、わたしたちは、神がどんな方なのかを描くことができます。「わたしを見た者は、父を見たのだ」（ヨハ14・9）。

2142 2143 2144

2145 2146 2147 第二のおきては、特に聖なることがらに関するわたしたちのことばの用い方を規制するものです（2142）

2148 2149 名を尊敬するということは、神ご自身の神秘とその神秘によって生じるあらゆる聖なることがらに払うべき尊敬を表すことなのです。聖なる感情というものは敬神徳に属します（2144）。

（神の名を唱えてはいけない？）信者は恐れることなく信仰を宣言して、主のみ名のあかしを立てなければなりません（2145）。

宣教活動やカテケージスは、主キリストのみ名への礼拝と尊敬をもって（2145参照）。

不敬の念をもって神の名を口にしてはなりません。わたしたちが神を知っているのは、ひとえに、神がご自身を明かされたからです。神聖な名は、全能者の心を開く鍵です。だから、神を侮辱すること、神の名で呪うこと、神の名にかけて偽りの約束をすることは、神に対するひどい冒とくなのです。そもそも第二のおきては、「聖性」を守るおきてでもあります。神にかかわる場所、物、名、人は、「聖なるもの」です。神聖なものに対する感受性は、畏敬の念と呼ばれます。

448. 偽りの誓いが禁じられるのはなぜですか。

偽りの誓いは、真理そのものである神を偽りの証人にしようとするものだからです。「真実であり、必要に迫られており、畏敬の念をもっているという条件のもとでなければ、創造主によっても、被造物によっても誓ってはならない」（ロヨラの聖イグナチオ）。

449. 誓約違反とは何ですか。

誓約違反とは、誓いをもって、守る意志のないことを約束すること、あるいは、誓いをもってなされた約束を破ることです。これはつねにご自分の約束に忠実である神に対する重大な罪です。（キリスト教的名前について） 2156, 2157, 2158, 2159

（キリスト教的名前）

洗礼を受けるとき、特定の洗礼名を授かることは、キリスト者にとってどんな意味があるの？

名前は、その人のアイデンティティと尊厳に深く結ばれているので、キリスト者は名前に敬意を払います。古くから、キリスト者は、聖人の名前から選んで自分の子どもに名をつけていました。それは、保護の聖人が子どもの模範となり、その子のために特別に神に執り成してくれるという信心によるものです。

（参考）「洗礼名」として、あるキリストの神秘、あるいはあるキリスト教的徳を表すものをつけることもできます（2156）。

第三のおきて 主の日を心にとどめ、これを聖とせよ

450. 神が「安息日を祝福して聖別された」（出エジプト20・11）のはなぜですか。安息日には、創造のわざの七日目に神が休息されたこと、イスラエルの民がエジプトの奴隷状態から解放されたこと、また、神がご自分の民と契約を結ばれたことが記念されるからです。

451. イエスは安息日に対して、どのような態度を取られましたか。

イエスは安息日が聖なるものであることを認め、神の権威をもって、その本来の意味を次のように解釈されました。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」（マルコ2・27）。

神は、創造主であり主であるかたですから、あらゆる真理の基準であります。人間のことばは、真理そのものである神と一致するか、対立するかのどちらかです。誓いは、それが真実で正しいものであれば、人間の言葉と神の真理との関係を明らかにします。偽りの誓いは、神を偽りの証人にしようとするものです（2151）。

2155 不合法な公権によって誓いを要求されるときには、拒否することができます。人間の尊厳、もしくは教会との交わりに反する目的で誓いが要求される場合には、拒否しなければなりません（2155）。→裁判員裁判の仕事に選ばれても拒否する

十字架のしるし

十字架のしるしによって、わたしたちは自らを三位一体の神の保護のもとに置いている。

一日の始まりや祈りの冒頭だけではなく、大切なことを行う前にも、キリスト者は十字架のしるしを自身の上にして、「父と子と聖霊のみ名によって」務めを始めます。わたしたちを全面から包む三位一体の神の名に呼びかける嘆願は、わたしたちが行おうとすることを聖なるものとし、わたしたちに祝福をもたらし、困難や誘惑の中で、わたしたちを強めてくれます。

2168 2169 2170 450の答えは、「なぜ？」に答えているだろうか。

2171 2172 安息日は主のためのもので、神への賛美のため、その創造のみわざとイスラエルのために行われた救いのわざへの賛美のために、聖なるものとして残しておくべき日なのです（2172）。

2173 神が七日目に「みわざをやめて憩われた」（出31・17）のであれば、人間もまた仕事を「やめ」、他の人々、とくに貧しい人々が「元気を回復する」ための機会を与えなければなりません。安息日は、日常の仕事をやめて休息をとることを可能にしてくれます。この日は仕事の奴隷になることや金に仕えることなどとは相いれない日なのです（2172）。

キリストはあわれみの心をもって、安息日が、悪を行うよりは善を行い、殺すよりは命を救う日であることを正当化しておられます（2173）。

安息日にいやしを行うことの正当性と、安息日のおきてをいくしきりをもって解釈することを主張したイエスは、イエスと同時代のユダヤ教徒に難問を突きつけました。イエスは神から遣わされたメシア「安息日の主」（マコ2・28）なのか、それともただの人で安息日に律法に背く罪を犯した犯罪者か、という問いです。

452. キリスト者にとって、安息日が主日に変えられたのはどのような理由によってですか。

主日はキリストの復活の日だからです。主日は「週の初めの日」（マルコ16・2）として最初の創造を思い起こさせます。安息日の次の「八日目」として、キリストの復活によって開始された新しい創造を示します。このようにしてキリスト者にとって主日はすべての日、すべての祝祭日の中の最大の日、主の日となりました。その日、主は過越によってユダヤ教の安息日に込められた霊的真理を完成させ、神のもとにおける人間の永遠の安息を告げたのです。

453. 主日はどのようにして聖とされますか。

キリスト者は、主の感謝の祭儀に参加することによって主日とその他の定められた祝日を聖なるものとします。そしてまた、神に礼拝をささげることが妨げたり、主の日の固有の喜びを乱したり、必要な心とからだの休息を妨げる活動を控えます。家族の必要や社会的に大いに貢献する奉仕に関連した活動は、主日を聖とすることや家庭生活や健康に有害な習慣を作り出さないものであれば認められます。

454. 主日を休日として市民法に則って認めることはなぜ重要ですか。

すべての人に次のことが実際に可能でなければならないからです。十分な休養と、宗教的、家庭的、文化的、社会的な生活を営むことのできる自由な時間とを楽しむ。黙想、内省、沈黙、勉学に適した時間を自由に使う。とくに病人や高齢者のための善行に献身する。

2174 2175

キリスト教の主日には、三つの重要な要素があります。

①世界の創造を思い起こさせ、善なる神の輝きを時の流れの中にもたらすこと。②キリストにおいて世界が新たにされた「創造の八日目」を思い起こさせること（ですから復活徹夜祭では「あなたは人間をすぐれた方法であがなってくださいました」と祈ります）。③労働の中断を聖化するためだけでなく、今という時を、神のもとでの永遠の休息に向けるために、休息のモチーフを取り上げること。

2176 2177 2178

2179 2180 2181 主日は毎週行われる復活祭なので、初期の頃からキリスト者
2182 2183 2184 はこの日、自分たちのあがない主を祝い、感謝をささげ、主
2185 2186 2187 と再び結ばれるため、またあがなわれた仲間と結ばれるために集まってきました。だから、主日と教会のその他の祝祭日を「聖なるものとして守る」ことは、良心あるカトリック信者にとっては大切な務めです。その務めから免除されるのは、家庭の事情による急用と社会的に重要な責務がある場合だけです。主日のエウカリスチア（感謝の祭儀）に参加することは、キリスト者の生活にとって基本的なことなので、相当な理由なしに主日のミサから遠ざかることを、教会は重大な罪だと明白に宣言しています。

2188

日曜日は、社会の善益に正しく寄与している。そのためキリスト教色の濃い地域では、キリスト者は日曜日を国として保護するよう求めるだけでなく、日曜日に自分がしたくない仕事をするように他人に求めることもしません。すべてのものは、この創造の「休息」を分かち合うべきです。